

青年海外協力隊 27年度1次隊
ウガンダ派遣 小学校教育 山口 真緒
2017年2月18日



Mpola Mpola

～一歩ずつ一歩ずつ成長～

“Teacher Nalubega! Ohayougozaimasu.”

毎朝学校へ行くと、子どもたちがかけてくれる言葉です。

1ヶ月間の首都研修を経て2015年7月24日、ここナチレベ小学校に赴任して1年と7ヶ月が過ぎようとしています。この間に私に起こったドラマは数知れず。日本と違った環境の暮らしでたくさん戸惑い、悩みました。自分の期待と子どもたちの想いととの相違に落胆し、号泣しました。現地の人々の仕事に対する姿勢の違いや子どもたちの態度、道徳の無さに腹を立てました。溜まりたまったストレスやイライラが知らない間に心の中を支配し、私は知らず知らずの間にウガンダ人と距離を置くようになり、人を「信頼」できなくなっていました。ちょうどナチレベ小学校に来て3ヶ月が経った頃、信頼できる人が周囲に居なくてとても心細かったです。人を信頼できない自分が悔しくて嫌で、日々の日記に不満を殴り書きしていました。

しかし、1年半の生活を経て気づきました。「七回転んでも八回起き上がる。」これが、私が探し求めていた青年海外協力隊の醍醐味なんだと。そして、これまでの日本の文化や考え方に固執して全てを否定していた自分、苦しんでいた自分から変わりたいという思いが強くなり、私を少しずつ変えていきました。ウガンダの文化に適応したり、尊重したり、でも譲れないところは逃げずに話し合っ自分の意見を伝えられるようになりました。また、子どもからウガンダ名をもらい“ナルベガ マオ”として、新しい自分を、ここウガンダで見つけることが出来ました。そして何よりも、子どもたちや同僚とお腹の底から笑うことが多くなりました。

こうして、ウガンダの人々と接する時間が増え、人々の優しさ、のんびりした人柄、楽天的なところなど、見えていなかったウガンダの人々の良い所が見えてくるようになり、少しずつではありますが、人を信頼できるようにもなってきました。特に子どもたちを初め、同僚や村のコミュニティーの人々がすれ違う時にいつも“Nalubega Jyebaleko! (お疲れ様ナルベガ)”とフレンドリーに話しかけてくれるところが大好きです。

最後に、日本語であいさつしてくれる子どもたち、私の成長の場を与えてくださっているナチレベ小学校の同僚、遥々遠くから大声援を送ってくださっている日本の皆さん、そしていつも困難にぶつかった時に心の支えになってくれている大好きな家族に心から感謝します。そして、玄遠社の冊子に私の日記を度々載せていただいたおかげで、少しでも多くの人にウガンダの本当の姿を伝えることができたと思います。この様な貴重な機会を設けていただいたことを誇りに思います。帰国するまでが協力隊。これからも、健康と安全第一で無事任期を終えて帰国します。

Webale nnyo! (ありがとうございました!)

